

特集 「チーフ研修 いん 白山」

10/28 白山山麓の自然を間近に感じる大白山溪谷原生林トレッキングへ。当日、白川へ到着し天候は雨模様、トレッキングを決定するか否かの決断を迫られました。トレッキングガイドの三原さんより、経験の有無について確認、雨天決行した場合に予測されること・装備の確認・リスク等、代替プログラムの説明を受け「後は皆さんの判断です」との言葉がありました。それぞれに葛藤があり、不安は拭えず満場一致とはいきませんでした。決行を決定しました。

皆の願いが通じたのか、いざトレッキングに出ると天気も回復。三原さんの説明を聞きながら、原生林の中を楽しく、心地よく中盤まで歩くことができました。コース終盤百メートルの壁が、最初に聞いてはいたのですが、予想以上に急斜面の登り坂でした。何度も心が折れそうになりながら、前を急ぐ人の姿を追いながらも登りきる事ができました。皆がいたからこそ、頑張ろうという意欲が湧き、登り切った時の達成感「最近では味わったことのない、充実した気持ちで一杯でした。日頃の運動不足を反省し、ライフワークを見直す機会となりました。」

全員が安全に楽しく、トレッキングが出来たのも、ガイドのサポートとしての細かい部分の声かけ(滑らない歩き方、足の着く位置、ロープの持ち方や、知識豊かな説明があったからこそ。その姿に「プロを感じました。トレッキングを通して、お互いを励まし、気遣い、コミュニケーションを図ることで関係構築にも繋がりました。お互いに筋肉痛がなかったことを自慢しつつ、難関を共に乗り切った仲間」に感謝します。



生活支援シリーズ 「認知症」と「認知」は同じではない

「呆け」→「痴呆症」→「認知症」と当事者にとっての尊厳を考えた表現に変わる中で、時折カンファレンスや日々の会話で「認知」「認知の人」と表現される場面を耳にします。

「認知症」と「認知」は意味が異なります。認知機能が低下する症状が認知症です。それを認知症＝認知と捉えると病気という概念がどこかへ行ってしまう。そんな言葉一つにこだわることも時には大切かもしれません。問題行動→行動障害→周辺症状/BPSD(行動・心理症状)の言葉の変化も何故変化したのか、是非お近くの認知症ケア委員のスタッフに尋ねてみてください。

次回スキルアップ研修のご案内

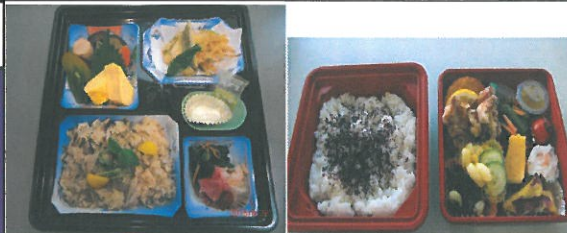
1/22日開催決定

ターミナルケアについて / 排泄介助について  
※対象の皆さんは、事前にエルダーと共に、課題としている部分を共有しご参加をお待ちしております。  
12月末までに夫々の課題をお知らせください

サンビレッジフーズ発  
～育樹祭のお弁当提供から～

池田町で10月10日「全国緑の少年団発表大会」が行われ、県からの依頼を受けてサンビレッジフーズから小・中学生対象に570食、来賓向けに20食を提供しました。毎日多くの食数を作っているフーズですが、普段の食事と並行して一度に570個の弁当を提供する事は未知の経験でした。調理、盛り付け、運搬といったそれぞれの小さなチームを作り、各担当リーダーを中心に準備・話し合いを試行錯誤して行いました。その結果当日はスムーズに流れ、予定時刻よりも大幅に早く仕上げることができ、地産地消の食材を盛り込んだお弁当は子供たちからは「給食よりもおいしい!」、来賓の方からは「鮎が食べられるなんて!」と高評価を頂くことが出来ました。

1人1人が自分の役割を把握し、主体性と責任を持って取り組め、多くの方に美味しい食事をお届けすることが出来たことはフーズにとって非常に大きな財産となりました。今回のイベントはフーズの力だけではなく、快く応援にきて下さった応援隊の皆さん、温かい言葉をかけて下さったサンビレッジの皆さんのおかげで成功することができたと感じております。本当に有難うございました。次は毎年の恒例になりました「おせち」に向けて今回の経験を生かして頑張ります。皆様のご注文をお待ちしております★



10/17 陽の里祭開催

週間天気では雨天の予報だったにも関わらず、さすが晴れ男、晴れ女の集団! 爽やかな秋晴れの下、大きな事故もなく、無事に陽の里祭を開催することができました。

今年、初のサンビレッジ校・リハセン白鳥の合同開催を行いました。打ち合わせの段階からコミュニケーションを図り、祭当日もお互いに協力し合いながら、終えることができました。

リハセン白鳥は臨床実習の場、第二の校舎という位置付けですが、祭を通じて学生や教員と職員の関係も一層深まった中、臨床現場での学びがより深いものとなっていくことを楽しみにしています。



新生苑の中庭ホール名称決定!

紫陽花(あじさい)